

富士見台小学校における児童との意見交換会 令和元年11月8日実施

|   | 質問・要望(要旨)                  | 回答(要旨)   |
|---|----------------------------|--|
| 1 | 教育委員会は、どのような仕事をしているのですか。   | <p>教育委員会では、区役所が行う仕事のうち、教育と子供に関する仕事を行っています。例えば、みなさんの使う教科書をどれがよいか選んだり、学校などの建物をつくったり修繕すること、給食の仕組みを考えることなどがあります。また、移動教室でも利用する少年自然の家が軽井沢など4か所にあります。また、その建物をつくったり運営したりもしています。練馬区では小中学生だけでなく、生まれてから18歳ぐらいになるまでの子供全体に関する仕事もしています。このため、幼稚園、保育園や学童クラブなどについても、教育委員会の仕事になります。</p> <p>教育委員会は、教育長と4人の教育委員で構成されていますが、教育に関する仕事は種類も量もたくさんあるため、この5人のほかに「教育委員会事務局」という、事務的な仕事を行う職員が約2,000人います。実際には、この大勢の職員がみなさんのために、日々、様々な仕事をしています。</p>  |
| 2 | 出前教育委員会は、なぜ始まったのですか。       | <p>出前教育委員会がはじめた目的は、主に2点あります。</p> <p>1点目は、教育の現場である小学校や中学校の様子を、私たち教育委員が直接知るためです。教育委員会は月2回行っていますが、普段は、練馬区役所の中で行っています。出前教育委員会では、この会議を小学校や中学校の会議室などをお借りして行います。みなさんが授業を受けている姿を見させていただき、また、みなさんと一緒にお話しをしながら給食を食べることで、普段の様子を知ることができます。私たちが、学校の様子を知ることが、教育の施策や方針を決定するうえで、非常に重要なことだと考えています。</p> <p>2点目は、教育委員と小学生や中学生、保護者のみなさんと意見交換の場を設けることにより、みなさんに教育委員会の仕組みを理解し身近に感じていただくこと、またみなさんからご意見やご質問を直接うかがうことです。直接ご質問をうかがってお答えすることで、より教育委員会がみなさんの身近になり、みなさんからのご意見やご要望を今後の教育施策に反映できればと考えています。</p> |
| 3 | 教育委員会で働くために、資格や試験などはありますか。 | <p>教育委員になるための資格は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」という法律に定められています。</p> <p>具体的には、教育委員は、25歳以上で、教育や学術、文化の知識が豊富で優れた考えを持っていることが必要とされていますが、特に「教員の資格を持っている人」とか「大学を卒業していること」などという決まりはありません。ただし、「委員のうちに保護者である者が含まれるようにしなければならない」という決まりがあり、みなさんのお父さんやお母さんが教育委員に選ばれることもあります。</p> <p>また、教育委員の仕事をする期間は、教育長が3年、委員が4年で、区長が議会の同意を得て任命します。自由に教育委員になることはできず、住民の代表の方々に選ばれる仕組みになっています。現在の委員も、学校長、PTA役員の経験や、子供にかかわる会議への出席、地域での活動などの積み重ねの中で、教育委員に任命されています。</p>  |

|   | 質問・要望(要旨)                         | 回答(要旨)  |
|---|-----------------------------------|---|
| 4 | <p>どうして小学校は、1時間の授業が45分間なのですか。</p> | <p>小学校では、多くの学校が1時間の授業を45分間としています。これは文部科学省が全国の学校に示している時間であり、みなさんが学習に集中して取り組むのにふさわしい時間と言えます。授業の時間が短すぎると、先生は教える内容をしっかりと教えられません。反対に、授業が長すぎると、みなさんが疲れてしまい集中力が続かなくなってしまいます。こうしたことから、ちょうどよい時間として45分を設定しています。</p> <p>しかし、学習する内容や活動によっては、45分ではないこともあります。理科の実験や家庭科の調理実習などでは45分ではなく60分や90分で行った方が、準備から片付けまでしっかりと取り組むことができるからです。</p>   |
| 5 | <p>なぜ、電子黒板を導入したのですか。</p>          | <p>例えば家電製品のインターネット化などのIoTや、AI(人工知能)、ロボットなどの革新的な技術の登場により、これからの社会は大きく変わっていきます。みなさんが新時代を迎えるにあたって、どのような学びが必要なのか私たちは考えています。その取組の一つとして、今年の夏に大型ディスプレイの電子黒板などを教室に整備しました。</p> <p>令和2年度から、授業のやり方を定めている学習指導要領が新しく変わります。これにより、今後、プログラミング学習や、みなさんがグループで取り組む協働学習などが授業で行われるようになります。電子黒板などは、こういった授業のあり方が変化する中で、みなさんにわかりやすいと感じてもらえるような授業を実現するために活用してもらいたいと考えています。電子黒板に写真や動画を表示することで、言葉だけではなかなか伝わらないことを実物ではっきり見ることができるようになり、授業が今まで以上にわかりやすくなるでしょう。</p> <p>今後、学校のICT環境がさらに発達すると、学校同士がネットワークでつながり、他校の友だちの顔を電子黒板で見ながら一緒に学習ができる日が来るかもしれません。</p> |